



利 9
2832
卷

香 恭 弟 序

月 幾 得 極 是 弟 難 故 躬 不
愧 於 多 項 而 願 不 慙 於 不
通 乃 肯 下 芥 亦 首 卯 年 來
盈 弟 三 樂 在 我 一 身 樂 哉
樂 哉 雖 寬 巧 王 出 樂 阿 已
知 焉 令 茲 弄 明 榮 非 其 奇
者 萬 福 終 生 壽 考 五 卯 年

香 恭 弟 序

香 恭 弟 序

八重吊中七々尾歌敷
 中輩角能一芥洞弓瀨厨
 弓白馬骨詠歌者月數百
 篇己東牙初出隋稽奉西
 王夷出哥賀凡平残奇開
 楷凶南五馬辨燦如赤城
 霞嬰嬰出戲靡辰不坐因
 名白香菜昂 甲少山八

和文 老芋子卷之一
 和歌



十の^の賀とく^くむ^む序

小寺 玉泉文庫
 朱楽茶江

こ^ころ^ろの^の赤^{あか}ら^らま^まさ^さら^ら乃^の衣^いあ^あい^いぐ^ぐら^らよ
 ち^ちあ^あし^しら^らど^どゆる^{ゆる}あ^あんで^{んで}命^{いのち}毛^けあ^あぐ^ぐせん
 と^とあ^あん^んの^の福^{ふく}や^や物^{もの}し^しあ^あま^まの^の居^いま^まの^の六^む十^{じゅう}
 か^から^らま^まつ^つん^んの^のち^ちあ^あま^まの^のま^まの^のま^まの^のま^まの^のま^ま
 ら^らん^ん友^{とも}と^と地^ちの^のう^うぎ^ぎり^りを^をつ^つと^とく^くや^やぐ^ぐく^くこ

とがまのむしらとひらくされハ崑崙のや
まふらよせきよしハ桃乃枝とら
ひやよせしむら^報を^あらむもの
あつて人をめくまぶし^報をけうらる
そのあつて人をあつてざちねハこのまよ
あつるものひんぐりより西より人あつたり
ゆよりあつてむれハ四方のあつらむが
ちてこねとむつべんやして肉通

のちから^頼干乃^こひらとまよ^ま子^ま里^直
白^丸あつちのふちり^道手^りま^ら
ちとりよあよ大こやてふたの^のあり
りむと^てり^るま^ふは^方の^まら^うと^を
むよかの中川のやどりのういたぐい^まあ
らぬどおのつ^のあ^らむ^ちい^ちく^さい
ふ^は坂^のい^くま^よハ^あか^をせ^しい^ふね^寺
あ^かと^らま^くら^のう^まの^物み^ちい^く

この君とていふは孝子松とていひま
つきのよきでかしのついでにのちなる枝
葉はよもふさぐりあやむいふもいふと
いふものうらみあはれつゝさるゝもいふと
おのちらうゆき言はれは中よらぬのこ
松のよきもあはれや葉をむくまのおこしあり
うー

山手白人

四方主人の太夫人こころいふ六十六乃
かえとらゆきあはれつゝつて二一天作の
み子孫も繁昌は命もそらぬと句いふ
十歳盛のおとつねえまは葉花の光を
かざりて人といひぬあふと出せる数くハ斗
升もああるよらこいひあるべしと
お歌のたむつあり唐人の祓ごとくも
ぞあるづまをのむくされりらよハ

〜の意味乃遠くよふかぬはにいらつ々の
年をさかあゆむをがぞあま先朝鮮の
唐子年家のサるよりアガ 日本子
順よそのも かな乃大ありとゆへー
お言れ二番めあるべーこれより年
順よそのも 犬の年ハ 盗人子順ハ
猿乃年ハ 浮き子順ハ 猫の年ハ ぶづり
きよ順よそのも ちよら子順よそのも 日より

見のゆりごとくは耳小歯違フのよき牛
を白太夫のゆり順ハ耳小削筒の能き
馬ハ杜子美乃調子順ハ風もまよ順ハ
ざんや竹馬の年ハ羅紗乃羽織子順
ハ羅紗乃年ハ大風呂子順ハ中
結ハとあり森まき子順ハ芋ともある
を耳とけしむる蛇ハ鰻ハあつ泥ハ
順ハつらつら中ハ村あたる木鬼ハ違

摩子順々 荻井棚 乃 荻井とあるなり
達摩の年 鑑ハ 荻井順々 九年 鑑
玄徳の年ハ 富子順々 之五九四のけん
ともあつらん 展禽の年 多語順々
伊弉里 葛藤を 差次す 許由の年
頼流子順々 千川とありと入斗る 耳
底記ハ 細川家 記子順々 耳 摩子
俳優子 乃 話子順々 花籠の年 池の 埜子

順々と 鹽乃 耳ハ かつみ 乃 順々 多ま
夫の 互吐子 順々 端の 年ハ 飯林子 順々
穉子 乃 内儀の 下界 乃 順々 多ま 乃
多り 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
順々 勝子の 茶と あり 乃 乃 乃 乃 乃
儉約子 順々 雨申の 樂と する 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
の 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

ひ耳みみ鼻はな乃紙こ縷りハ何なにゆへゆへ一いち唇くちびる子こ順じゆん子し也
 ゆがめるゆる顔かほゆととおろしおろし投な壺はの耳みみハ天あま子こ
 順じゆん子し也也のの名なをを取ありり一いち耳みみ子こ也
 ハ耳みみ子こ也也順じゆん子し也也耳みみ搔かハ鉸きり子こ順じゆん子し也
 子こ也也のの名なをを取ありり一いち耳みみ子こ也
 出いるる耳みみ子こ也也ハ一いち乃の部ぶ子こ也也从もひひ耳みみらら也
 耳みみハ醫い者しやををみみ順じゆん子し也也蛤かき貝がひの奥おく白しろハハ也
 淺あ独ど樂がくの和わ子こ也也白しろ子こ也也順じゆん子し也也耳みみ白しろの
 名な子こ順じゆん子し也也耳みみハ一いち是こゝ府ふ肉にくの耳みみの白しろ和わ子こ也也順じゆん子し也
 本もと耳みみの白しろ味あじ順じゆん子し也也順じゆん子し也也のの一いち丹に後ご縷り
 の耳みみの白しろきき子こ也也順じゆん子し也也のの救きうををみみ一いちルるウうフふル
 ハ遠とほきき子こ也也順じゆん子し也也耳みみツつトとウう耳みみハ一いち也也ハ口
 子こ也也順じゆん子し也也ハ一いち也也ハ一いち也也ハ一いち也也ハ一いち也也
 耳みみハ一いち也也のの密みつ結けつ也也ハ一いち也也ハ一いち也也ハ一いち也也ハ一いち也也
 天あま道みちハ一いち也也ハ一いち也也ハ一いち也也ハ一いち也也ハ一いち也也
 のの一いち也也ハ一いち也也ハ一いち也也ハ一いち也也ハ一いち也也

布ハク袋フクロハクハクの華ハナ部ブ乃ノ什シ子シよヨらラる
親オヤとト相アイあアおオ文ブキ出デ放フ紙シ目メ出デ綱ツ詩シあアらラる
しシるルあアらラるル紙シ目メ出デ綱ツ詩シあアらラる
出デたタらラるル乃ノあアらラるル書シ於オたタらラるル

東方朔

平秩東作

鄙ヒノ婦メ自ヨリ致シ乃ノ道ミチひヒろロきキ武ブ藏ゾウ
野ノ乃ノ書シとト尋ミねネ是コト是コト何ナニ豆マメ
の山ノ中ノよヨらラるル者モノあアらラるル依ヨりリ按アてテ
此コノ度タビ四シ方ホウ赤セキ良リヤウ乃ノ如ニ一イツ北ホク堂ドウ六ロク十ジュウ
の賀カとト書シきキ路ロよヨつツこコ諸シヨ方ホウあアらラるル
相アイあアらラるル狂キヤウ文ブンとトあアらラるルやヤらラるルがガれレてテ
美ミくクあアらラるル乃ノ如ニ一イツ地チくク急キウ依ヨりリ

金拾一亭を二島のひと宿を
く朔夕訓く浦志まや玉手箱
根の山都く世をまきて一かまた
を業いりつとまあきつさるり里つぎき
大儀ぐーや平塚のちぎれ相石破イソクチ
羽織藤澤戸塚打るるく袂な門
川崎呂川とかぞくくく入れり三行
ある萬載集よりくも高きまなびら

客とつていふまは久大黒屋もどきま
きりりくワキ高松宿子あくる不出妻
ゆた狂言二首未楽管の道しゆ
披露頼入いキリつとあきて晴る山
乃ま素オスエ柄ヒト子ミドリ緑をとりさわ子露の
山めらるる長いながき川舟の氷子
考コイをやしたなまらあきと秋き山路
乃菊の酒酔をましくあきとあき

冬ハ巨魁子池田炭ダニすしと頭巾の
やまあぐらふかぐらふめくまきとたれをむを
もあられぬ孝行あ子持清袋様へ
ち我わつらぐらふかぐらふ七百六高り
ハ子三浦大助百むらうやあむらひ
かろぎ一駉子附く白馬乃豊の雲
昔子あしめよき事むらうまひま
あしもぐらふかぐらふ西五母の園の桃九
千歳をも平殺ししよきお名残
にやとらふ勢もろろハ東雲も明
ゆく東音朝者伴豆乃園を
アキ

栗の下

紀定磨

▲
此の山は山崎の山にありて
山崎の山は山崎の山にありて
山崎の山は山崎の山にありて
山崎の山は山崎の山にありて
山崎の山は山崎の山にありて
山崎の山は山崎の山にありて
山崎の山は山崎の山にありて
山崎の山は山崎の山にありて
山崎の山は山崎の山にありて
山崎の山は山崎の山にありて

老翁の化寄体
祝日
山崎の山は山崎の山にありて
山崎の山は山崎の山にありて
山崎の山は山崎の山にありて
山崎の山は山崎の山にありて
山崎の山は山崎の山にありて
山崎の山は山崎の山にありて
山崎の山は山崎の山にありて
山崎の山は山崎の山にありて
山崎の山は山崎の山にありて
山崎の山は山崎の山にありて

モノモ おお内モフ ● 妻よ女の身はあつたあつた
 たり ▲ のまよ ● のまよ ▲ イヤ 某で
 ござる ● イヤ ちらう行へて来んぞ ▲ 別の
 義でもいひしもの者のもりよ
 義つていざる ● 義つていざる ●
 ハア 押つけ中上をよしめいんやされま
 しのれんいおえいんやんやんやん
 小のゆゑぬち候ござるい人の母
 取合おのこあのかんこんやんやん
 ぶんく何れもおおとねいんやん
 是ハ 大悪や ● 何れや 大悪を
 小や ▲ イヤ 老母花を代にたて目には大
 う ● イヤ ちんふんちんちん 目白の
 大いん ● 此れも大いん 目白の
 ▲ そのとまれ討ていん ● イヤ 目白
 目白 某もいんやん

あれ汝一人とあがらまはしつゝあらはるる
 のほろいぬまらくくくく 一ハア
 中く日出るしむらあはるるのあ
 年とさびしきい●あはるる●あはるる
 ●あはると●あはるるさるのあはるる●
 かにと▲あはるる千代あはるる●一はと
 月出るいもあはるる▲ハア●あはるる▲ハア

春代名老本詩

相もその後夫天下より名をたはるは徳あ
 れとて海子より實ある所ハ民あつたる
 物ら子作くもさるる代のいさよはるる
 ちハ徳子納く月出るまはるるあはるる
 ちよこしき其ちもさるるあはるるあはるる
 母に子あはるるさるる馬のあはるる
 ちちち文才詩家のあはるるあはるる

月のおあやめ時めきうらのさうらざく行な
つてくもくうらな当りなき及のあまらうら
れしうやまひまらあしはせのさあまら
御老母君の六十のあまらむいしうらうら
とて末のうらまき自としてうららぶのさうら
下所まてあれあうらうらうらうら川や目
白の黒まらうほらうら大あま内のうらまら
たぐひまのうのうらまらと作あまらうらうら

士典名工蘭のあ人どもうらむくうらあまら
うみうらうらう大令の席に連る校まらうら
あぐらうてまきうら秋葉の時ばうらあ
載集のたうらまらうらうらうら月出
とてまらうらうらうらうらうらうら
かのうらうらうらうら

権代文書

仙術
うげ捨

千里走さすの巻

全

あ令のあ字

延命袋



又小字年ゆかして

延命袋

あ字



つまはたて
はらんであるのと
どろくちちちち



うが
まこ

あやうぢう
あやうぢう
あやうぢう
あやうぢう
あやうぢう

抑げ仙術ありうげ捨と申の四方大人のうけ
藝にそめるものうげめひわぬれと予
ゆけうげあめんうけうけく五百走めて守子
入段一息と書くとふふ走りて自分
の事ごとく毎日稽古におこなう新づり
は傳へたるうげ捨は只延命袋の事と申す
ゆえの事と申すは目くらけゆ時めて船中ノ三月
江戸四里四方に名をきく人々ありあは目白
の大黒屋に賣の事と申すの後知もあは延命袋の
事と申す岸田社芳くうやまの業を何れとも申す

三子歳成云桃從今歳

こちとせふまるとふりのこと

あむむせん



あむむ

あむむ



三子

さらまんねんも生やアがれエ川

正統天皇の御代
門々 助

宗十良

史のあくの法云に。天子は耆老の徒行せ侍
庶人の耆老の徒食せ侍。▲宮中六十形智八
十。嫁入ざりてんづる海越の車やえとの
杖。ほきせねは楽めう久々の何ちに教
女の天津星。ほらにも根とひの老雲乃。

ちいとたうアがあらん。むうくの後
頼のそよこおもそく世の松のうをそふ
と並家のほりてに方の海とありまで
四方やは人の斧の柄も七世の孫をふらう
と。よもどろが橋のいく菜かめてのせみも
たわあれた老女毎天盤長姫。神とらひ
仏とらひ。ほりもに方の正統天皇と。教白
淡川菊之丞

とちかくからまの夢のふにくかぞう
はまもふみせませしてむちよまほとよま
南のじゆう中ぞう海をどむじのりきり
ゆふたのちちゆめハこめこしごめの幸さちもある
多経きあつて家母の大人ハ他かたそ
のちちをわいあといぬてあきともた
よほーさうい出るうにちかそそその母の
こころのまますこころのちかこころ

あかほへの字あは眉まゆの尻しりくりの字
あはあはーしちちあはまははしてあ
の残のこさでなとと升まの米こめをかりなくかせ
あまあもあたまあまわのあしんか人とな
ぐちあしにちちあまあしちちあまあしと
ちちあまあしちちあまあしちちあまあし
とあまあしちちあまあしちちあまあし
おちい玉ちち汗あせはちちぬの穀こめをゆ

たつとまじむ。おのが擧^{さつ}月^{つき}をきくら玉や。まじも
代^{しろ}吹流^{ふきりゅう}のかりや。船^{ふね}の流^{なが}とちが
せし。汗^{あせ}を月^{つき}まじむのみと。仲^{なつ}河^がへりや。昔^{むかし}
ふらひ代^{しろ}。ア^ア夕^{ゆふ}之^の代^{しろ}。古^{ふる}用^{もち}を舞^まの乃^の
明^{あき}寺^{てら}。代^{しろ}まじり。毎月^{毎月}や。や^やも。ひとら。二^につ^つ日^ひ。
ひひらき入^いり。えがら。お^お十^{じゅう}五^ごお^お。空^{そら}中^{なか}の
月^{つき}乃^の。代^{しろ}草^{くさ}紙^しや。新^{あらた}まよ。浦^{うら}。九月^{くわがつ}ハ。空^{そら}中^{なか}の
某^{たれ}莫^なあ^あら。ま^まの申^{まを}も。あ^あら。と。圃^ほ。神^{かみ}を

月^{つき}とく。十^{じゅう}夜^や舎^{しゃ}武^ぶの米^{こめ}代^{しろ}。し^しれ。老^{らう}本^{ほん}乃^の。ま^ま
代^{しろ}。年^{ねん}も。百^{ひゃく}八^{はち}。百^{ひゃく}万^{まん}あ^あま^まび^びり。講^{こう}。ま^ま月^{つき}代^{しろ}
ん^ん代^{しろ}。と。糸^{いと}を^をの^の代^{しろ}。舞^ま子^こ。代^{しろ}を^をあ^あら。ま^まご^ご乳^に
代^{しろ}ま。ま^まぐり^{ぐり}。と。代^{しろ}を^をま^まつ^つる。ま^まご^ご。ま^ま
さ^さら^らの^の。ま^まご^ご。代^{しろ}を^をま^まつ^つる。ま^まご^ご。ま^まご^ご。ま^ま
あり。代^{しろ}を^をま^まつ^つる。ま^まご^ご。代^{しろ}を^をま^まつ^つる。ま^まご^ご。ま^ま
代^{しろ}を^をま^まつ^つる。ま^まご^ご。代^{しろ}を^をま^まつ^つる。ま^まご^ご。ま^ま
煤^{すす}拂^{ふき}の^のえ^えが^がら。ま^まご^ご。代^{しろ}を^をま^まつ^つる。ま^まご^ご。ま^ま

我等が教もあざむ。母君れいそどのかえりて
たてまゝ流る川柳。垂るる句ときさし一ゆあ
川柳てんぬとよと斗

百の作者の其中一ア人せむ

花葉多急作
実ハ筆をとりあら

万九合米高拾貳万三子也百

花の生子
相作

五拾六石七斗八升九合

壽

はうれいり
くーれと
は代へりて
は壽命あぐ

祝まゝらんまくの肉
千百俵

このらんづの肴にハ人魚あり

ちうひげとやくー如来ハ小僧にー

まんもの本末万さくぐむとほり

一万三千年 池のちりつる
千八百年 牛込 まつ竹
廿五百年 上冊山下とれハ本

六十大吉



未得拜尊顔

一ども此目子ハ
くらぬども

謾歡御歳長

ひせう子よろこびの
ねあぢりらまいで

亀霍掲尻逃

本せまいつるむうめも
かみりぬうらまらるぞ
とちりりてよがるんまら

松樹垂枝愴

まつたにがるまのまのの
ゆへあごととされてあや
まりりるぞ

けこらどよあふ人の天及子あまひ氏神とりのりてより
○病みさしよるー ○そせうするらもばにけふ
○をづりりいまーらんがすあさうむことりあん
でもうでもるよー

河井物梁

寿

七八九十百千万く歳

二よ二階乃
にぎとひハ

六ッ喜病身身
突糸

一ふ儀の

大星屋

三子と月
吉日子

四ッ四才此
法袋ち

五ッりのまそ
わきりかく

君之通法乎色お考中ハ家木生花也

易曰

☰	☰	何	何
☱	☱	何	何
☲	☲	の	の
☵	☵	ハ	ハ
☶	☶	カ	カ
☱	☱	ク	ク
☲	☲	ノ	ノ
☵	☵	キ	キ
☶	☶	カ	カ

天の愛おまらるる二月

相文 老女女子出らるるニ加陪仲塗謹記

相文 老女女子出らるる四



一、山ありて

但六十洞八十八洞百洞二百洞
唐を以て大徳と云ふなり

亀さきまじら

口

清きまじら

牛三神下小使十八所

らまじら

和良助

於煮花大塚

山道高彦製衣



二月十四日昂席献之

料理人

唐来参和
乃轻折舟
一名政演

虫の

吸物

豆腐赤子
きんぎょ
しんりの
ねま

桃子

延年酒

ほね

目出しのり
はんらん
いさひま
せうがぎ

鱈

おんが
はら
かき
か

汁

きんぎょ
ちりし

本膳

坪

合点あん
よつと
きつとけ
酒子
赤あひ

飯

いく子代と
こよつと

香物

老母の花信
家と
わりの口

二膳

炊茶

出世
智のあひ
福
りりぢけ

二汁

ちり
塩なら
りりま
よろこぶ
あつ
こやうの粉

大平

老あひんこ
蓬菜
あつとけ
あひんこ
あひん

燈お

あひん
鯛の漬
焼

茶碗蒸

あひん
あひん
老あひ
あひん

おろし

あふ
あひん
大梅

猪口

かりいがる
あひん
あひん
あひん

吸お

あひん
あひん
あひん
あひん
あひん
あひん

飛子

あひん
あひん

湯

濃茶

万代の
後むり

饅菓子

かあぶらやう子
こまきやう
けいせき
うららやう
あきやう
けのち
いんげん
あんぢやう

浮茶

後むり
あきのつめ

干菓子

あきの
あきの
あきの

吸物

あきの
あきの
あきの

吸茶

あきの
あきの
あきの

吸茶

あきの
あきの
あきの

あき

あきの
あきの
あきの

千秋万葉大叶

くろくろくおしみるりともいふたふく
くろくがひさしれ桃もくもあざし
ふよわゆるうまふんくまふのど話あのみま
引も松のりくまふ竹のよろく代つるも
つよいもぬてはさかのふくまふく
やくろくめいふま ホウイ

壽四方山人御袋六十初花 王元氣

子寶親元無盡長花開六十萬年香遊來
羨女西王母若返御囊桃太郎日本一催
多趣向唐風半入見繁昌四方集賀赤良
會門弟仙人舉壽觴

坂上竹藪

老木花開目白前壽筵捧出島臺邊東方
朔殿九千歲三浦大人百六年仙術此場
河足學神通自在是應全從今無限女松

のららぶるまを樂よりいよらるびあらん
漢のまののしきやぬよるひ子世の代も生
そよ竹のまをたててあしむううらうや
はくもゆりうもようこひ中ける心のあるん
まげよあん
よろこや老子の花もつくちをちの枝も枝の
春とまらえと
春こころまらえと蛙のうへ代ちよれよと

後京孝由

かきくしれあん

老中ちえ

松子

ふれあきさといふもまらるあぞおのの
花よりまらうて

松やてら女

いへまのいへまのいへまのいへまの
花よりまらうて

母はあぬのあぬのあぬのあぬのあぬの

あつて 師のちまうおちせしされぬをとり

花をばけり

年あゆむ様と杖と九十九髪と七九六十三
月吉日

袋はくーや丸ことば せんは遊

蛙有曲井不知滄海寛と居われとほろ
おる枚子も目まのあうぬあうやがあらる
とらぐらに啼や蛙のあ袋おらうあると
も思ひ入をやと程又今日あめその中
袋ふよとるわあこぶとに方れまらん乃
頼みはうせうらひふとかんせん袋へ五あめ
紙めん中とひのんぢもれら急袋とらう

けどるらほのだん袋素中自後何の
 へさあつあや吾朝あも日幸武のこと
 東夷せいをうれ清時夷うれ野に火を
 かゆしに銀とねひて茶とぶざ倭姫より
 たまふ袋とひうさむう火と打出しはあ
 に夷とたうげあふ是火打袋のはド
 めにしてあつひ親仁が金袋あうり握
 つい大黒の袋へたううれ並ふりてい袋
 めよりあつとあつ子と入るへぬう袋いりもこの
 はうに徳義に万歳袋へ支差が何とあう
 こぼちにすうちあうこちあうことくさ
 日やぶ入のでらちがさげんを介袋を
 らう袋と氷のうく魚とあゆ一王様より
 何方の赤良の酒袋へ俵あ孝や六十の契
 八十八乃よぬ袋百袋とあはうこのやす
 賣千万袋めあん命子あう孫ひとそ

海をくわゆるるものひ袋へ源氏の
傳弓へ袋に活る御代今日歌の大倉茶
代この人のや免ことばうもいへり
是へアめんすの人と茶袋とりし
ぬはーおくじし袋よ
とやうやまうてやス

Faint bleed-through text from the reverse side of the page.

お父 老女 子 若らふ子

お父のむ老女 花寄袋 祝とらふとらふと
りきけぬとらうに袋の只とらふと
ほのさうとらふと

寄袋 祝 かのあゆみ

延命のお袋をぬれ年賀とて祝ふに母の才子は子室

ちきゆ子

あらういふとむあめり袋とてらうきよまの袋のうらち

ちきゆ子

朱樂かん江

ワふしはあまの千とせと袋よりまられぬけても命

卯雲郎白鯉

万葉の代糸あめしよの文字八十八のうきりしらぬん

濱きこ黒人

若ら名とあそぶ千のしら弾もいまや袋おさぬまら

山手白人

いく千代のまろいよとまよもさや花の端のまきしらよ

手柄岡持

鉄炮もろも納る御代あれいよのお袋のうらとけてぬん

酒上不埒

志あつしよとよくあははれる大君の御代は千秋をん袋を

竹杖為軽

おららしと氣どする袋室引の君うよをいよとせあがりせん

一文字白根

と一の矢は六十よあれと一の袋袋のうらつるは千と年

算本を改

孫喜ぶやきやうもたこの千代りてさけり家のせりお代

物か明補改

る場金坊

ささあつのおきよのよきいせ吹り行の信のいをひては

康津詔志款

ひさやうハせんこのはまむげと十代をうりかやのせん切

あやゆ録改

橘実十郎

人こらみうさらちやちう代をまある鹽のせりある代

秦玖呂面

延令の代をれ初の末もくむきよむとちの老の時

白田あせを

そくあまれかこりよひくられやうり代系おさほじ代

川井物梁

豆の粒ひろひくつちる延令のあくられなあちちを

北川やせん

万代のまの粒くしやうふらふらりぬるのりる齡り

小嶋みさ子

あはれ代しつちあよきとまき散葉代れいあはれは

みさ子延命

あはれ代しつちあよきとまき散葉代れいあはれは

大東冬名

あはれ代しつちあよきとまき散葉代れいあはれは

大東安土名

あはれ代しつちあよきとまき散葉代れいあはれは

羅智の母

あはれ代しつちあよきとまき散葉代れいあはれは

浦之干綱

あはれ代しつちあよきとまき散葉代れいあはれは

算本あき母

あはれ代しつちあよきとまき散葉代れいあはれは

後うら秋人

あはれ代しつちあよきとまき散葉代れいあはれは

大を裏住

年よれにほもあもくつらうとてはまのつらあさつた

厄米人

あつちあつちあつちのちるはむいゆのやまの海代はせれて

酒盛入るは常宗

志ちううぐくおははるしよは名あつちのちある智恵はま

遅村ちの

小はあのみきこへはよふさやねの模様もあひまのち

帝お嫁

まきののちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち

銀杏満門

延令れはまの口まかして結ふむとよせしれ救の子室

常春河

とらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

鴻垢磨

とらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

紺をぬき

近令ふしうさうあのお代を志せうとよきう家の家と

久志を安告

六十へまよゆりうあう代をあふまの点とれ口あや

滴形むさみ

むつまの申は姑とよち葉ついで家のとちものちあふは

津奈法師

昔よりうあううのいふ代はううとあうとくはうとく

唐書系系

近令の代をいふのまは代と結しとあうとあうとあう

一即子枝

いふとあうとあうとあうとあうとあうとあうとあう

志あふとあうとあう

いふとあうとあうとあうとあうとあうとあうとあう

唐書系系

いふとあうとあうとあうとあうとあうとあうとあう

聖のまゝに

年よりあまのうらみ大にやせむとせむあはしのこころ

斗をねむ

いくふ代とあまのやまに福祿あまのきとせむ

染瓜は也

延命のまくらに十千代にけりてさるる年とこころまじり

おこれのみまじり

あはれまのほろもいそと大にやせむとせむあはしのま

加保茶え成

世中とまのまじりあまのまじりあまのまじりあまのまじり

お魚内所

かきつゝも限あまのまじりあまのまじりあまのまじり

秋風女身

あまのまじりあまのまじりあまのまじりあまのまじり

株上育ち

神のまじりあまのまじりあまのまじりあまのまじり

田原小樞 秀氏

大馬のやうの口と心まへてきつとてくちの教の子室

賞香 蘭示

あつてはまゝのあつてはまゝのあつてはまゝのあつてはまゝ

ひらぬ 聖幣

ちとてはあつてはまゝのあつてはまゝのあつてはまゝ

山花久 多々

やうにちとてはあつてはまゝのあつてはまゝのあつてはまゝ

あつてはまゝ

あつてはまゝのあつてはまゝのあつてはまゝのあつてはまゝ

あつてはまゝ

あつてはまゝのあつてはまゝのあつてはまゝのあつてはまゝ

池田 詠

あつてはまゝのあつてはまゝのあつてはまゝのあつてはまゝ

あつてはまゝ

あつてはまゝのあつてはまゝのあつてはまゝのあつてはまゝ

Handwritten text, possibly a title or chapter heading, written vertically in cursive.

Handwritten text, possibly a title or chapter heading, written vertically in cursive.

Handwritten text, possibly a title or chapter heading, written vertically in cursive.

Handwritten text, possibly a title or chapter heading, written vertically in cursive.

Handwritten text, possibly a title or chapter heading, written vertically in cursive.

Handwritten text, possibly a title or chapter heading, written vertically in cursive.

Handwritten text, possibly a title or chapter heading, written vertically in cursive.

Handwritten text, possibly a title or chapter heading, written vertically in cursive.

Handwritten text, possibly a title or chapter heading, written vertically in cursive.

Handwritten text, possibly a title or chapter heading, written vertically in cursive.

Handwritten text, possibly a title or chapter heading, written vertically in cursive.

Handwritten text, possibly a title or chapter heading, written vertically in cursive.

Handwritten text, possibly a title or chapter heading, written vertically in cursive.

Handwritten text, possibly a title or chapter heading, written vertically in cursive.

Handwritten text, possibly a title or chapter heading, written vertically in cursive.

Handwritten text, possibly a title or chapter heading, written vertically in cursive.

Faint handwritten text at the top of the right page.

はるふに代りてのまはるみまをいふとていふは

時々の成

もいふすよ齡ハ多ん令れとて口れ初とるはり

帆南西太

はるも千代のありおふせんまのちまはまあるさけは

Faint handwritten text in the middle of the right page.

とらちまのうらな時あはれいゝ千代とていふ富きとて

Faint handwritten text in the middle of the left page.

まきちまのいぶしゝゝのちまのちまはまはるは

唐の之末也

好も福もいゝゝゝのちまの口ゝゝあまのちまは

奥の手あけ

あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

波女

まゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

志月菴素庵

あさあけの津代はちてしまら袋よしのもまきつるも
こわれ

松平道梅書

あつ地の節もころく千代はちて袋のふらつる

燕斜

百まふまらうりて牛も多しちのふらつる十の口とて

松川西舟人

そまののまらちてふら袋はらう出る程よ

忍岡き

ちてふら袋はちてふら袋はちてふら袋はちてふら袋はちて

はる本を船

あつちてふら袋はちてふら袋はちてふら袋はちてふら袋はちて

ちりやま

古ひてふら袋はちてふら袋はちてふら袋はちてふら袋はちて

おめよと

ちりうとなりらあつる近余れお袋はちてふら袋はちてふら袋はちて

逸 咀 英

百歩百歩うら表りと二三百なく千代うけり

紅つらき

おちよりの代よおちよりの人のいふ年迄今の代よ

いふより

いくちよれ齡うつすぬま代えひもきつとら

大井 蛙

春を代りよとよくふゆいよと千と斗れ春の教より

石 孫 合 志

うち出つていよきおもたつやあつと十の

如 倍 仲 塗

一とやの糧よみとをこい代迄今あれつと

栗 成 久 大

いよまどののうよ秋ぞん代えひものよ

次 子 帆 足

千代らあくらぬらなくとる代迄福六十よ

五 十 四

地只方武

親の代々の中より其力千九百とらふこととて

千とせぬもの事とて其力千九百とらふこととて

千とせぬもの事とて其力千九百とらふこととて

めら女

子代にや一袋の肉をゆいぬれ其命あつてまゝ家の

ちあつたらふもの事とて其力千九百とらふこととて

ちあつたらふもの事とて其力千九百とらふこととて

ちあつたらふもの事とて其力千九百とらふこととて

ちあつたらふもの事とて其力千九百とらふこととて

ちあつたらふもの事とて其力千九百とらふこととて

ちあつたらふもの事とて其力千九百とらふこととて

片眼あきら

ちあつたらふもの事とて其力千九百とらふこととて

持皮訂武

ちあつたらふもの事とて其力千九百とらふこととて

大なる山なるなり

運命の代り多し

ササくる虫

運命の代り多し

八世の御子

運命の代り多し

紫由か

運命の代り多し

運命の代り多し

運命の代り多し

偶の中級

運命の代り多し

女田人成

運命の代り多し

絶望の心

運命の代り多し

紀三十一

江山の齡をいふてさし一甲志のひくとする袋うま

書出田丸

これよりいふはさしつゝささるやうにさしつゝさの春

みちをいふ

さう代の子世さつゝさやあひ袋さうらつてさしつゝさ

壽おきぬ

令根をいふと袋へあさつゝさ毎も万年松七千年

あさつゝさのうの袋あひとささつゝささすおさし

播磨福子

六十八八十八のよひ袋をいふとささつゝさ口ひささう

腮名馬母

あさつゝさのうの袋あひとささつゝささすおさし

あまさん

あまさん

ほむ方人の北堂の賢延はゆうけあり
これれけいせいとていさう其志とのよ

千里亭白駒

ある年も又らる年も古産はまきとてなる代良百まき

頼干田人

右平のうらひはまおきまうて代々のさうりていさひ

内匠をうら

年の笑といふことくは袋ちらる載集まつく才花

跋

あや〜あつらん四のあつらんむそ
しれ智真の大紋目〜ゆきたなあまり
四の日や屋やもら備〜あ〜あ
さん柔〜もつけのちちらあつら
を備〜も〜せ〜あ〜ひ〜あま
よち〜ん〜れ〜い〜あ〜り〜あ
あ〜い〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ
あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ

